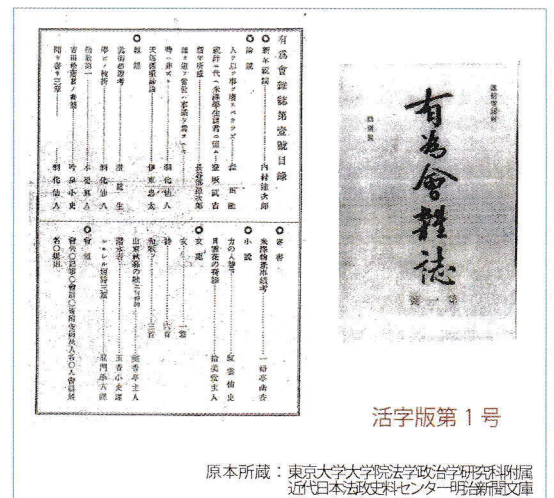


『米沢有為会雑誌』の発行

当初の『有為会雑誌』は、^{こんにやく}蒟蒻版での印刷でした。明治22（1889）年12月発行の第1号（後に活版第1号が刊行されたので首号と呼ぶ。）が、当館で確認できますが、^{うちわらたつじろう}だいぶ文字が薄くなってきている状況です。内村達次郎の「創立者の一人として」（『米沢有為会雑誌』第400号）には、「蒟蒻刷版は会の発展につき八号位まで出して其後活版刷にしたように記憶している。」と記されていますが、現在確認できるのは第1号だけです。

活版刷の第1号が刊行されたものは翌23年1月28日で、32ページ、^{へんしゅう}発行者兼編輯者は伊東忠太、印刷所は並木活版印刷所本郷分舎でした。以後、2年後の第28号から『米沢有為会雑誌』と名称を替え、昭和18年（1943）5月刊行の第515号まで、54年間にわたって刊行され続けましたが、戦時体制の中で、休刊となりました。

この『米沢有為会雑誌』の中には、育英団体であると同時に、会員同士が率直に交流して切磋琢磨する同郷人団体としての歩みが、克明に記録されています。また、米沢の動向なども記され、郷土の歴史資料としても貴重です。



戦前の有為会関係書類は、東京興讓館寮にあった本部が戦災により全焼し、全て灰燼に帰しました。その後、『米沢有為会雑誌』は各地に残存したものが集められ、年ごとに製本したものが東京興讓館寮に備えられ、平成元（1989）年には当館に寄贈されました。一部、欠号もありますが、郷土資料閲覧室で閲覧でき、郷土の貴重な資料として利用活用されています。

